

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第7号(11月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に発生に注意》

【バラ科果樹】 **クビアカツヤカミキリ**

【きゅうり】 **コナジラミ類**

【かんしょ(さつまいも)】 **基腐病**

【野菜類・花き類】 **シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ**

《11月の予報概要》

A 水稲

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲 (収穫後防除)	ジャンボタニシ(スクミリングガイ)				

B 果樹類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
バラ科果樹	発生に注意: クビアカツヤカミキリ				
みかん	発生に注意:貯蔵病害				
果樹類全般			果樹カメムシ類		

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり			べと病		
	うどんこ病				
		褐斑病			
		ウリノメイガ			
		アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマは 黄化えそ病の発生に注意)			
			コナジラミ類 (退緑黄化病の発生に注意)		
ねぎ	発生に注意:ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ(えそ条斑病)				
かんしょ (さつまいも)	発生に注意:基腐病				
あぶらな科 野菜			根こぶ病		
			菌核病		
		コナガ			

※ねぎは令和5年度より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

D 野菜類・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				オオタバコガ	
			アブラムシ類		
			コナジラミ類		

《(参考)11月の気象予報》 (大阪管区气象台 10月26日(木)発表)

気温	低い(10%)	平年並(30%)	高い(60%)
降水量	少ない(40%)	平年並(40%)	多い(20%)
日照時間	少ない(20%)	平年並(40%)	多い(40%)

A 水稻(収穫後防除)

病虫害名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	—	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲刈り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させたりして越冬貝を減らす。土中の浅いところ(6cm 未満)に潜って越冬することが多いため、耕うんを浅く、ロータリーの回転を速くする。 ・耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

B 果樹類

1 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス(幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる)を排出する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・被害が大きい樹は伐採し、破碎(チップの厚さは10mm以下を目安)や焼却することが望ましい。 ・伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。幼虫は根部も加害することから、伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い内部の幼虫の羽化後の分散を防ぐ。

2 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
貯蔵病害	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。 ・青かび病や緑かび病は主に傷口から感染するので、収穫時果実に傷をつけないように注意する。 ・果実が濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる(予措)ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。 ・庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にして貯蔵する。 ・貯蔵果の点検はたびたび行い、腐敗果を取り除き伝染を防ぐ。

3 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より少なかった。 ・10月の予察灯への誘殺虫数は一部地域で平年よりやや多く、ツヤアオカメムシがみられた。 ・10月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並	[予報の根拠] ・10月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・11月の降水量は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] ・気温 20～24℃で発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビーなど）等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	少ない	[予報の根拠] ・10月の巡回調査では、発生は見られなかった（平年より少ない）。 ・11月の降水量は少ない、日照時間は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・ハウス栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。 ・昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビーなど）、SDHI 剤（アフエットなど）等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
褐斑病	やや少ない	[予報の根拠] ・10月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・11月の降水量は少なく、気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・高温、多湿のハウス栽培で発生が多い。 ・初期防除が重要である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビーなど）等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ウリノメイガ	やや少ない	[予報の根拠] ・10月の巡回調査では、発生は見られなかった（平年より少ない）。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
アザミウマ類 （ミナミキイロアザミウマは黄化えそ病の発生に注意）	やや少ない～並	[予報の根拠] ・10月の巡回調査では、アザミウマ類の発生は平年よりやや少なかった。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・ミナミキイロアザミウマは、発生初期に、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。 ・ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病等の原因ウイルスを媒介するので防除を徹底する。 ・きゅうり黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。

アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマは黄化えそ病の発生に注意)	やや少ない ～並	<ul style="list-style-type: none"> ・MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。 ・生育初期の感染による被害が大きい。 ・ハウスの開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・発病株は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
コナジラミ類 (退緑黄化病の発生に注意)	やや多い ～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、コナジラミの発生が平年よりやや多かった。 ・一部地域で、退緑黄化病の発生が多いとの情報があった。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミによって、退緑黄化病が媒介される。 ・退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。 ・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・発病株は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

2 **ねぎ** ※ねぎは令和5年度より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
ネギハモグリバエ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では被害株率が約1.5%であった。 ・11月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、従来の系統とは食害方法が異なる新系統の発生が確認されている。一葉に複数頭の幼虫が内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害し、葉が白化したようになる。 ・発生を認めたら、系統にかかわらず、「ハモグリバエ類」「ネギハモグリバエ」に適用のある薬剤を散布し、発生初期の防除を徹底する。
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査ではネギアザミウマの寄生株率が約8.5%であり、えそ条斑病の発病株率が約1%であった。 ・11月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ネギアザミウマはえそ条斑病の病原ウイルスであるアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)を媒介する。 ・発病株は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

3 かんしょ(さつまいも)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
基腐病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 病原菌は被害残渣で越冬することから、残渣はほ場外に持ち出し処分する。持ち出しできない場合は、収穫後速やかにすき込み、分解を促進する。その際、残渣は細断してすきこんだほうが次作の基腐病の発生を軽減できる。

4 あぶらな科野菜(キャベツ、こまつな、しろな等)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
根こぶ病	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月のキャベツの巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> あぶらな科野菜の連作を避ける。 土壌水分が多いと発生しやすいので、排水対策を行う。 土壌pHが低い(酸性)と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH7程度に調整する。 発病株は見つけ次第根ごと抜き取り、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
菌核病	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月のキャベツの巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。 なばなやレタス等、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
コナガ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月のキャベツの巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生初期に防除を行う。 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い ~多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、10月上旬は複数の地点で平年より多く、中旬は平年よりやや多かった。 10月の巡回調査では、露地ねぎ、キャベツで発生が見られた。 11月の気温は高いと予想されている。

シロイチモジヨトウ	<u>やや多い</u> <u>～多い</u>	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	<u>やや多い</u> <u>～多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・10月の巡回調査では、キャベツで平年より多い発生がみられた。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
オオタバコガ	<u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より多かった。 ・植物防疫協力員から、発生は平年並との報告があった。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。 ・摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。
アブラムシ類	並～ <u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、キャベツ、きゅうりで発生がみられた。 ・10月の黄色水盤調査における発生は平年よりやや多かった。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類	並～ <u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月のトマト巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・施設トマトの黄色粘着トラップに誘殺が確認され、黄化葉巻病の発生が見られた。 ・11月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト等施設栽培では、開口部に0.4mm目合いのネットを張り、成虫の侵入を防止する。 ・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。また、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。

	・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
--	-----------------------------

- 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>
※R5年10月31日現在、Google Chrome でページが開かない障害が発生しています。
閲覧の際は Microsoft Edge、Apple の Safari 等からご覧ください。
- 病害虫発生情報メールサービス
申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループメールサービス担当
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailsservice.html>
- おおさかアグリメール
申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当
<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>
- Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)
<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。